

The mass of a proton and the neutron.

The difference is a difference of the electronic rest mass.

The mass of a proton and the neutron.

The difference is a difference of the electronic rest mass.

When mass vibrates at high speed, mass occurs.

When vibration gets closer to velocity of light, it becomes the infinite mass.

The electronic mass is rest mass and the sum with the exercise mass.

Most of the electronic mass are formed of exercise mass.

Rest mass is only several percent.

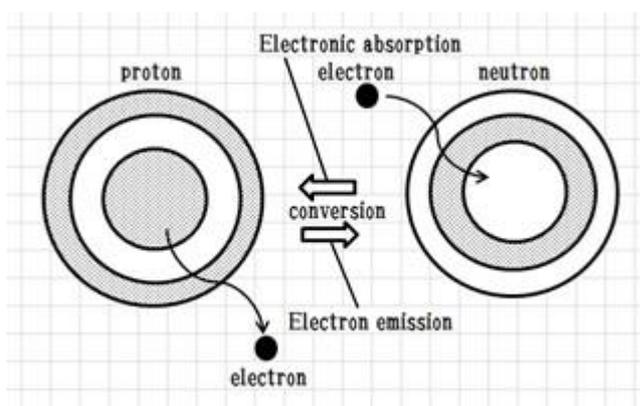
The electric charge of a proton and the neutron.

An electron of the inside does the action of the electric charge.

The electron in the proton acts as a positive electric charge.

+ As for the electric charge, a pulsatile timing acts as a plus electric charge same as a reverse positron.

The neutron which released an electron loses an electric charge.



The mass of a proton and the neutron.

The difference is a difference of the electronic rest mass.

The electronic mass is rest mass and the sum with the exercise mass.

When mass vibrates at high speed, mass occurs.

Most of the electronic mass are formed of exercise mass. Rest mass is only several percent.

The electric charge of a proton and the neutron.

A proton, the electric charge of the neutron are decided by electronic incorporation.

An electron of the inside does the action of the electric charge.

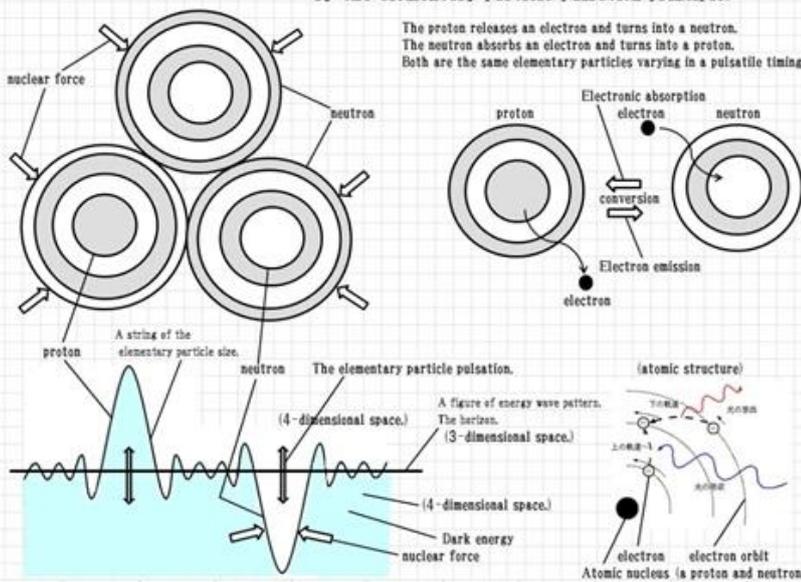
The electron in the proton acts as a positive electric charge.

(+) As for the electric charge, a pulsatile timing acts as a plus electric charge same as a reverse positron.

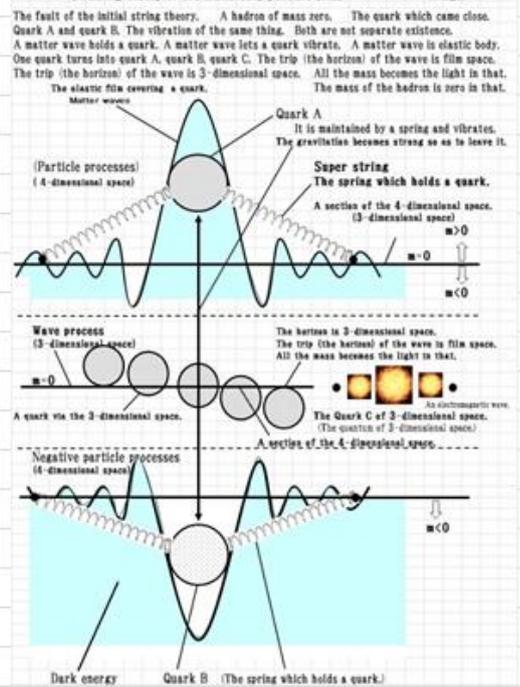
The neutron which released an electron loses an electric charge.

The differences between neutron mass and proton mass are equal to electronic rest mass.

A figure of atomic nucleus structure and the nuclear force by the elementary particle pulsation principle.

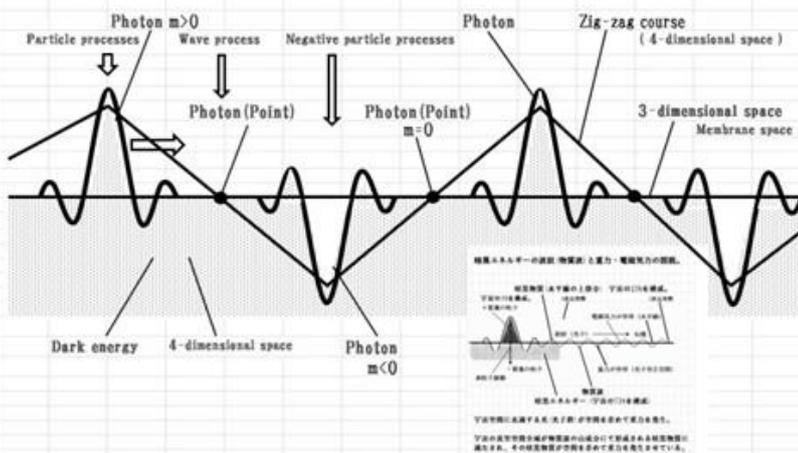


A pulsation hypothesis leads a super string and a quark theory. (A string theory of the elementary particle size.) (Image)



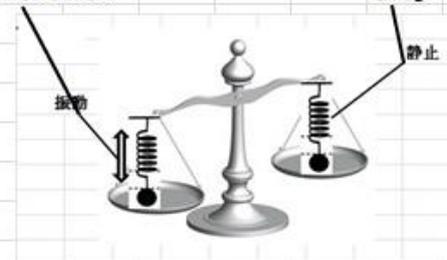
Pulsating hypothesis reveals Higgs mechanism

- * Photons are pulsating and getting forward, in the 4-dimensional space
- * Zigzag progress of photons is same as the Higgs mechanism.
- * Particle acquires mass.
- * Dark energy is equivalent to the Higgs field and the mass of small amplitude of the zig-zag.



vibration

stop



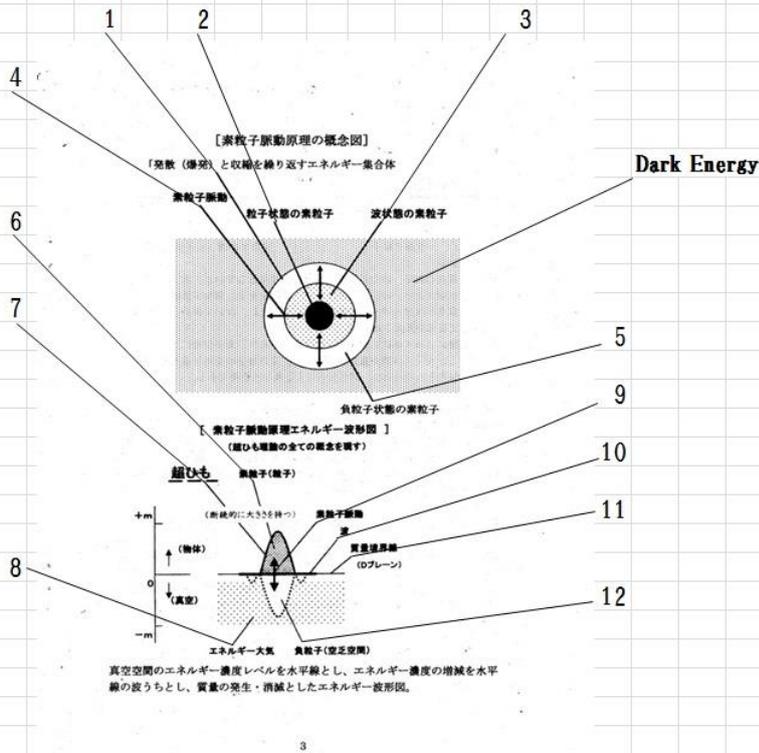
Mass is caused by vibration.

When vibration gets closer to velocity of light, it becomes the infinite mass.

Hypothesis of Pulsation principle

hikari368

In 1980
Terubumi Honjou 本莊光史
Hypothesis
Pulsation principle



1	Energy collective
2	Elementary particle physics
3	Wave
4	Pulsating
5	Negative particles
6	Elementary particle physics
7	Ultra thongs (Superstring theory)
8	Dark Energy
9	Pulsating
10	Wave
11	Mass border
12	Negative particles

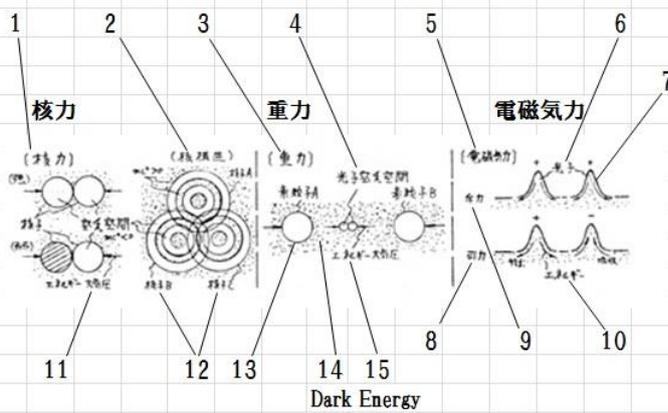
Figure) In 1980
Presented by the physical society of Japan
Dark energy was discovered in 1998.

Hypothesis of Pulsation principle

In 1980
Terubumi Honjou 本莊光史 hikari368

仮説 Hypothesis
脈動原理 Pulsation principle

Uniform geometry of pulsating hypothesis.
Nuclear forces Gravity Electromagnetic force



1	Nuclear force
2	Nuclear structure
3	Gravity
4	Empty space
5	Electromagnetic force
6	Photon
7	particle
8	Gravity
9	Repulsion
10	Energy
11	Energy air pressure
12	Nuclear
13	particle
14	Dark Energy
15	Energy air pressure

Figure) In 1980
Presented by the physical society of Japan

Dark energy was discovered in 1998.

陽子と中性子の質量と電荷。

陽子と中性子の質量の差は、吸収・放出される電子の静止質量の差である。

電子の質量は静止質量(暗黒エネルギー)と、質量が超高速で脈動する運動質量との和。

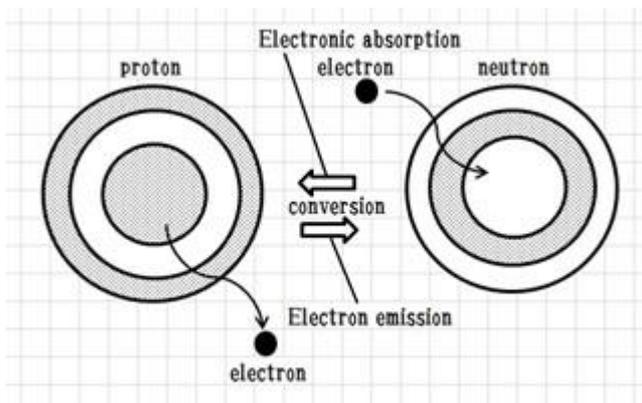
電子質量の大部分は運動質量で形成され、静止質量はわずか数%を占める。

陽子、中性子の電荷は電子を内蔵するか否かで決まり、電荷は内蔵電子の作用である。

陽子内の電子は脈動のタイミングが逆の陽電子と同じプラス電荷として作用する。

電子を放出した中性子は電荷が無くなり、陽子より電子の静止質量分だけ少ない質量となる。現在まで、陽子と中性子の質量が僅かに差があることの説明が不十分であった。

素粒子脈動原理の仮説がその謎の解明に迫る。



物質波は4次元空間の中で脈動する実在の暗黒エネルギーの波。

- * 物質波を発見したド・ブロイは物質波の周波数を粒子(光子など)に付随し、先導する実在の波と解釈した。
- * 先導する波(パイロット波)は波の位相速度と波束の群速度がある。群速度を自由粒子の移動速度と考えた。
- * しかし、波束はすぐに崩壊し、パイロット波は光速を超えてしまう。最終的に、物質波は粒子を発見する確率の波と解釈された。
- * ド・ブロイ、アインシュタイン、シュレーディンガー等、量子力学を誕生させた人々が終生、確率解釈を受け入れなかった。

素粒子脈動原理は物質波の波束を、超高速で脈動している一つの波と解釈する。確率解釈を否定し、量子力学を実在に戻す。

物質波は実在する4次元空間の中で脈動する実在の暗黒エネルギーの波である。

ド・ブロイの解釈。

粒子 先導する物質波の束(パイロット波)

素粒子脈動原理による解釈。

核力 核子 電磁気力(水平線) 重力 光子

場の素粒子領域のエネルギー密度が観測不可能な超高速で増減している。

素粒子脈動原理が導く「崩壊しない波束」

粒子 素粒子脈動 波 真空空間を満たす物質波のみぞ波。(光子)

負粒子 空乏空間 真空空間を満たす負エネルギー

シュレーディンガー方程式の崩壊する波束(粒子)。

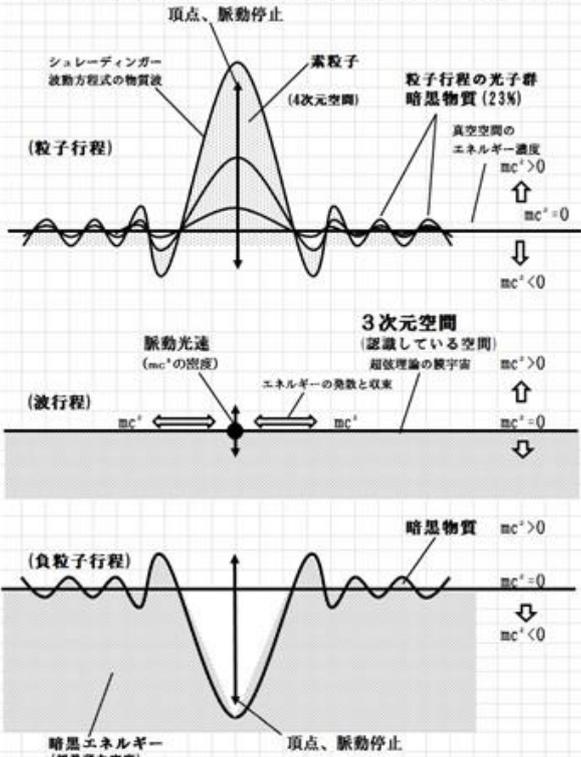
量子力学では、崩壊するために状態を粒子としてそのまま扱えない。絶対値の2乗・確率解釈が必要になる。

陽子と中性子の電荷と質量。

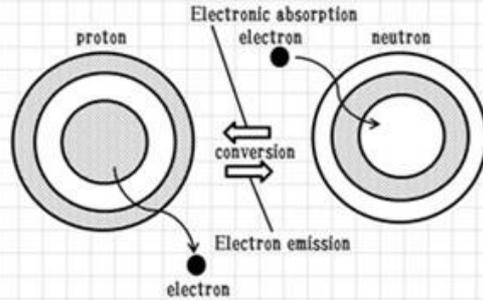
陽子と中性子の質量の差は、吸収・放出される電子の静止質量の差である。
 電子の質量は静止質量(暗黒エネルギー)と、質量が超高速で脈動する運動質量との総和。
 電子質量の大部分は運動質量で形成され、静止質量はわずか数%を占める。
 陽子、中性子の電荷は電子を内蔵するか否かで決まり、電荷は内蔵電子の作用である。
 陽子内の電子は脈動のタイミングが逆の陽電子と同じプラス電荷として作用する。
 電子を放出した中性子は電荷が無くなり、陽子より電子の静止質量分だけ少ない質量となる。

暗黒エネルギーの脈動による素粒子質量の発生機構。

暗黒エネルギーの超高速脈動が素粒子質量の大部分を形成する。
 素粒子は脈動する暗黒エネルギーによって構成されている。
 暗黒エネルギーの質量は、素粒子質量全体の3%にすぎない。
 大部分の質量は暗黒エネルギーの光速、停止を繰り返す素粒子脈動により発生する。

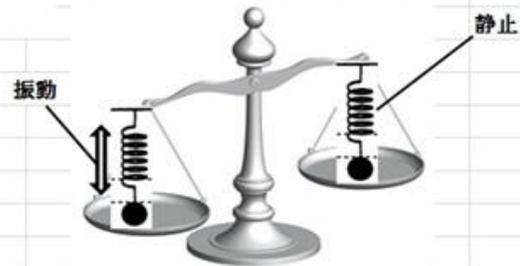


陽子 電子 中性子



脈動のタイミングが異なる同じ素粒子。

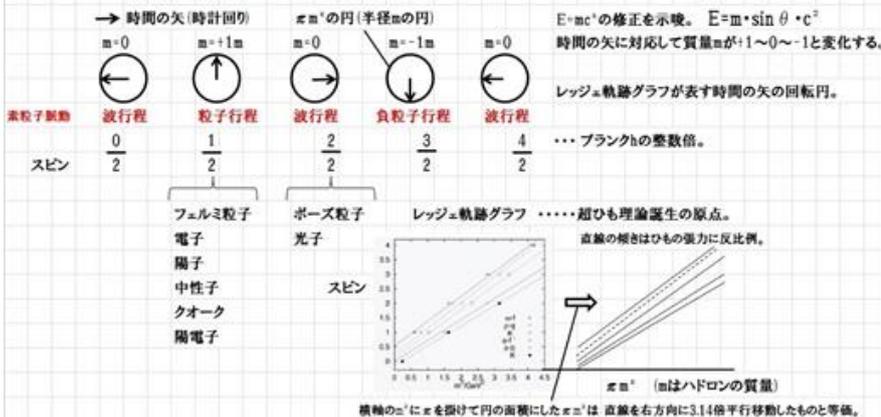
振動により質量が発生する。
 振動が光速に近づくと無限大の質量になる。



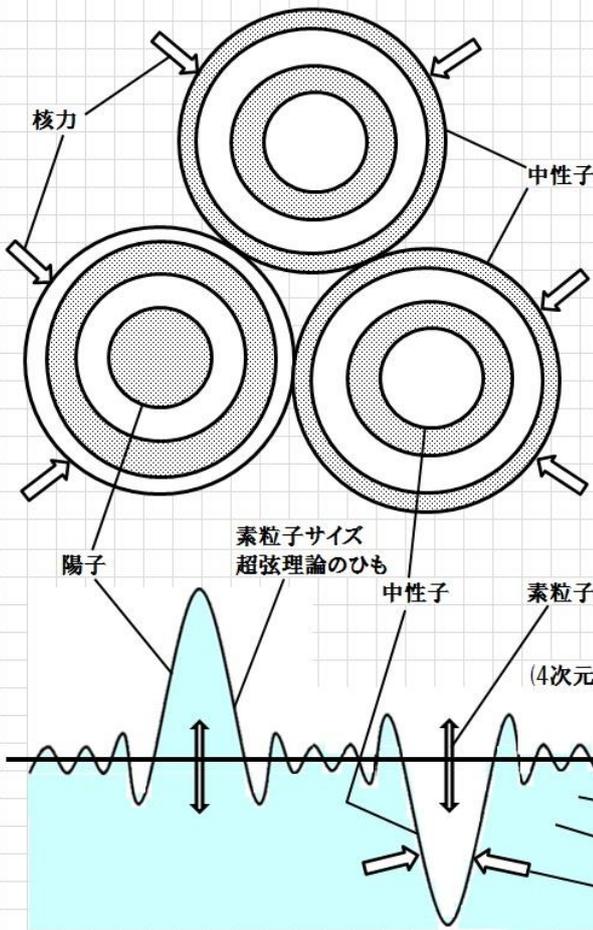
脈動仮説がスピンの謎を解明する。

- 素粒子脈動原理の各行程とスピンとが対応している。粒子行程、負粒子行程は半整数スピン、波行程は整数スピンと対応する。
- 脈動の粒子行程、半整数スピン1/2は電子、陽子、中性子、陽電子、クォーク等のフェルミ粒子に対応し、質量 $m > 0$ を持つ。
- 脈動の波行程、整数スピン2/2は光子、等のボーズ粒子に対応し、質量 $m = 0$ で光速で伝播する。
- 脈動の行程の違いはスピンの整数、半整数に対応し、両者はタイミングの差ではないが、その作用は大幅な違いとなっている。
- 素粒子脈動原理は素粒子サイズの超ひも理論を提唱する。ハドロンは波行程にて質量ゼロ(点)となり、4次元空間で脈動している。
- 現在の超ひも理論は「極微のひも」が点ではないので標準理論に適合せず、次元のコンパクト化、実験による検証不能等と困難が山積。
- 素粒子サイズの超ひも理論は、素粒子を点として扱う場の量子論に適合し、重力や暗黒エネルギーを解明し、二重スリット実験の謎を解く。

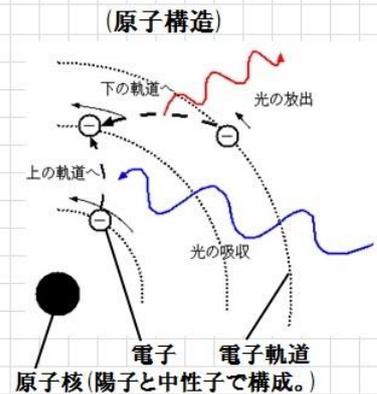
素粒子脈動の各行程が
 スピンの値に対応している。
 粒子行程=スピン1/2
 (フェルミ粒子)
 波行程 =スピン2/2
 (ボーズ粒子)



素粒子脈動原理による原子核構造と核力の図説。

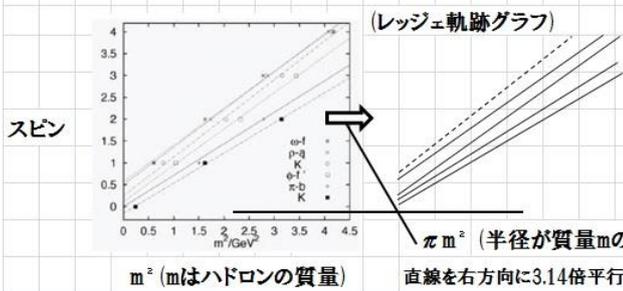
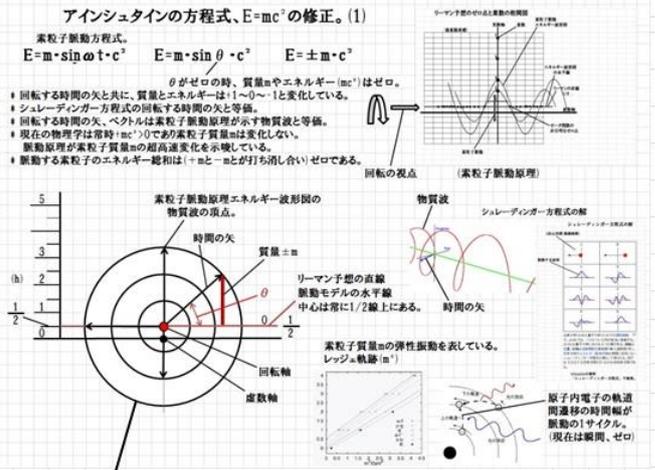
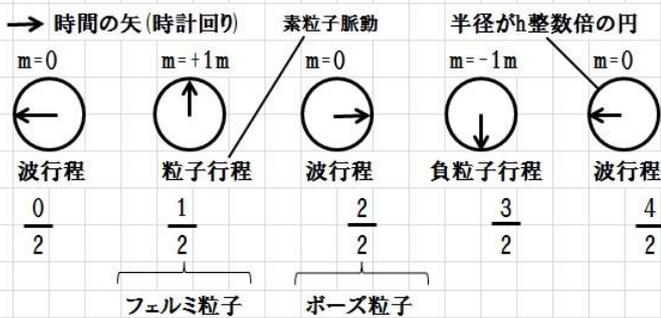


- * 脈動する陽子と中性子が核力によって結合している。
- * 核力は陽子や中性子の波紋の谷と山、谷と谷が接触した際の暗黒エネルギーからの圧縮力であると理解できる。
- * 重力も光子と光子とが接触した際の暗黒エネルギーからの圧縮力であり、核力と重力とは類似の作用力である。
- * 核力は核子と核子との接触による近接作用であり、核内の作用。
- * 原子核の殻模型と液滴模型とに対応している。
- * 陽子と中性子は脈動のタイミングが違うだけで同じ素粒子に見える。
- * 電子を放出、吸収して陽子と中性子は相互変換する。
- * 両者は電子の静止質量分に相当する質量の差がある。
- * 陽子も中性子も偶数個だとボソンとして振る舞い、奇数個だとフェルミオンとして振る舞う。超弦理論のレベルではない、素粒子サイズにて超対称性が現れることにも対応する。
- * 陽子や中性子を脈動原理によるクォーク理論や素粒子サイズの超弦理論としても理解可能。
- * 陽子や中性子は4次元空間で脈動し、波行程では質量ゼロになる。
- * 核子の脈動による波紋の谷が電子軌道であり、電子はその軌道を周回している。陽子や中性子、電子等は実在する粒子である。
- * 素粒子脈動原理は、核力・重力・電磁気力を統一的に記述する。



脈動仮説がスピンの謎を解明する。(2)

- * 素粒子脈動原理の各行程とスピンとが対応している。粒子行程、負粒子行程は半整数スピン、波行程は整数スピンの対応する。
- * 脈動の粒子行程、半整数スピン1/2は電子、陽子、中性子、陽電子、クォーク等のフェルミ粒子に対応し、質量 $m > 0$ を持つ。
- * 脈動の波行程、整数スピン2/2は光子、等のボース粒子に対応し、質量 $m = 0$ で光速で伝播する。
- * 脈動の行程の違いはスピンの整数、半整数に対応し、両者はタイミングの差でしかないが、その作用は大幅な違いとなっている。
- * スピン h は (半径が整数の円) / (半径が1の円) \times 1/2である。1/2は円の半分である中心(回転軸)を表している。
- * スピンは回転する時間の矢の円を表し、プランク定数 h の整数倍になっている。



レジュエ軌跡グラフが表す時間の矢の回転円。
 円の大きさはプランク h の整数倍。
 原子の電子軌道に対応して飛び飛び。
 半径が質量 m の円と相関している。半径が $1m$ の整数倍の円。